

## 近況・随筆

## 日本という国

浅海重夫

日本という国はどんな良さをもっているか、日本人の1人としてこの国のアメニティ(住み易さ)をどう評価するかを自問自答してみた。その結果、①兵役義務がない、②治安がよい、③言論の自由がある、④宗教上の束縛がない、⑤物質的に豊かである、⑥自然が多様である、⑦単一民族国である——以上の点を良い所と判定した。

いずれも他の国との比較の上でのことであり、物事には表裏があるから良さは悪さにつながるとも云える。そこで①について、日本は軍備を持たぬ世界無類の国であり、また徳川時代以後最も長い無軍備平和の時代にあることにより、無条件に評価を与えた。防衛必須論の是非は別として、愛国心が育たないとか若者の心身鍛錬の場がないなどの声もあるが、愛国心は育てるものではなく、鍛錬は別の場でなされるべきものだ。②はいわゆる治安の悪い国と比べ、多くの内外人の評価を得ている。ただし政治家の暴力を正す法治能力にやや不安があるのが気がかりだ。③日本は何を云っても書いても自由な国だと思われている。しかし実は今の世にもタブーがあるのだ。天皇制批判は今や自由だが、今凡世界的に拡がりつつある核兵器反対運動の波のかけに、日本では必ずしも卒直な意見がのべられない雰囲気がある。核の保有や使用を心では肯定する政治家がいても、それは云えないから黙っている。日本に落された原爆は必要悪だったと云いたいのが云ってはならぬ等々。正当論か、けしからん考えか、どちらの場合であっても、発言がタブー視されることがあれば真の自由言論社会と云えない。④日本人の大半が無信仰であるために、宗教上の束縛がないことをとくに暮しやすさの理由に挙げない人が多いかもしれない。しかし国民の大半が無宗教者であることが、倫理規範の欠落した日本をつくり出していないかと考える。

⑤日本はお金さえあれば欲しい物が手に入る情

況で、外国旅行も簡単にできる。国民の大半が中流意識をもっている。ただし容易に入手できないものが土地であり、それが金権政治に直結する。一方、物質の豊かさは心の貧しさの裏面とも云われる。青少年の心の健全な向上が阻害される心配がある。⑥島国日本の地形気候の特性に由来する山紫水明の国土は、日本人の情緒と文化の発達をささえた。日本の自然の多様さはすばらしい。沖縄にはさんご礁のある熱帯的景観があり、高山地帯には氷河さえ、遺物地形でよければ片隣をさぐることができる。一面、気象災害や地震火山の脅威をうけるのは致し方ないかも。⑦単族国ということは日本人同志の暮し易さの最大原因であろう。深刻な部族問題や民族間斗争は起らない。反面、島国という環境とあいまって、日本人の閉鎖性と非国際性が因果づけられたと云えよう。

何をもって国の良さとするかは、各人の主義主張や人生経験によりさまざまであろう。友人や周囲の人々の意見を聞きたいと思う。最後に日本の悪い点は何か、長所の反面でもある短所を挙げてみたい。①倫理規範の欠除、②政界の腐敗マンネリ(金で当選できる金権政治、そのベースに国民の未熟民主性がある)、③マスコミ主導の社会、④学歴社会(その根源は教育制度にあり、今や国民総塾時代に突入。その元凶は誰もが一応東大志向形になったこと)、⑤劣悪な居住環境(無謀な開戦のツケ、土地ころがしの金権風土)、⑥自然的社会的災害の多発、⑦日本国の非国際性(日本人は言葉のハンディを苛酷に負わされている)。

以上の長所短所各7項目を総合して、日本という国は何となく75点位で合格とした。せいぜい良い面を有難くかみしめ、これからもこの国に住みつづけることにしたい。それは日本の国土への理由なしの愛着、素朴な愛国心からの思いである。